

令和3年度 中央区立豊海小学校 自己評価報告書

学校名：中央区立豊海小学校

所在地：中央区豊海町3-1

校長名：村上 隆史

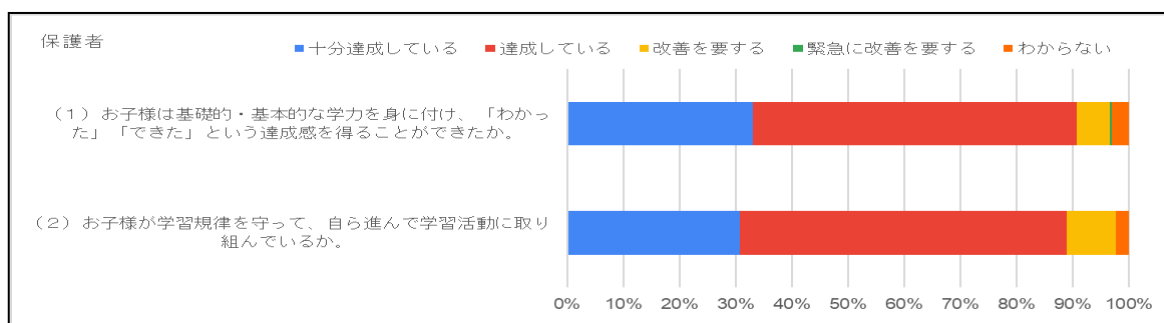
児童数 866 学級数 25 教員数 40 職員数 6

1 重点目標の達成状況及び取組状況

重点目標1【確かな学力の定着】

評価項目 ①個に応じた授業展開の工夫

②集中力や持続力を発揮して学習に主体的に取り組む力の育成



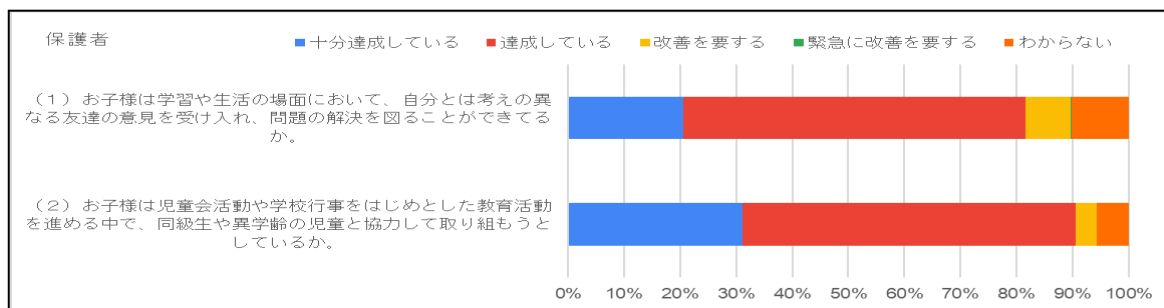
「学習理解」に関する質問では、保護者の90%、児童の95%が肯定的な評価であった。学力調査の全国調査(6年)・区調査(4~6年)では、5・6年の理科を除き、全国平均を上回る結果が見られた。また、東京都との比較ができる全国調査では、国語・算数ともに都の平均も上回っている。算数科で個別に指導が必要な児童への支援として、今年度は豊海塾(放課後補習教室)の回数を増やして対応した。このほか、今年度配備された1人1台タブレット端末を活用したドリル学習を行った。また、国語科については、朝の基礎・基本の時間等を活用して、個別対応をしてきた。

「学習規律」に関する質問では、保護者、児童ともに約90%が肯定的な評価であった。今年度は、学習や生活の規律を守るための「豊海スタンダード」で月別の重点目標を定めて取り組んできた。

重点目標2【自他の生命を尊重する態度の育成】

①多様な価値観を受け入れる心の醸成

②他者と協働して取り組む力の育成



「多様な意見を受け入れる」に関する項目では、保護者の8割が肯定的な意見であった。一方で、1割の方が「わからない」と回答されている。コロナ禍であり、学校の様子を直接

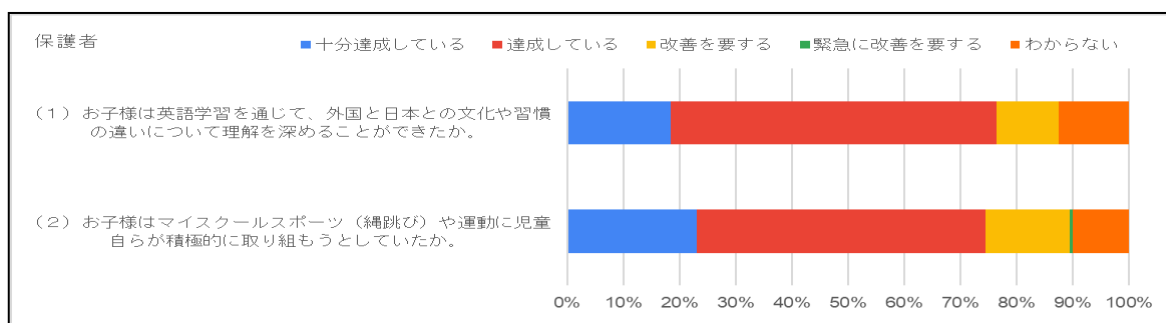
見る機会が少なかったことも影響していると考えられる。

「協力して取り組む」に関する項目では、保護者、児童ともに約90%の肯定的な評価であった。学校行事を昨年度同様コロナ禍の状況の中ではあったが、体育学習発表会、学習発表会や西湖移動教室など実施することができた。また、異学年交流や幼稚園との交流もできる範囲で直接交流を行うことができたことは成果と考える。

重点目標3【国際感覚の醸成と体力の向上】

①英語学習を通じた豊かな国際感覚の醸成

②すすんで運動に取り組める環境の整備



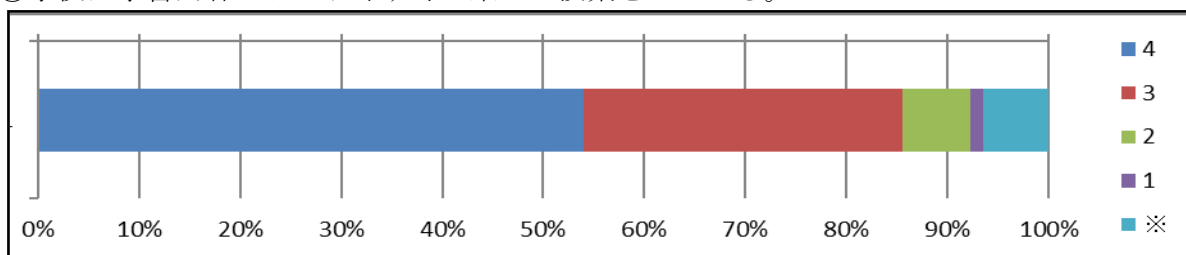
「外国と日本の文化の違い」の項目については、保護者が8割弱、児童は9割が肯定的評価であった。東京オリンピック・パラリンピックでは、ブラジル選手団の施設利用に合せて行う予定であったおもてなしの取組ができなかったり、英語学習における外国人との交流の機会を設定できなかったりしたことも影響していると考えられる。

「マイスクールスポーツ（縄跳び）」の項目は、保護者、児童ともに約7割の肯定的評価である。休み時間の外遊びの減少、長縄跳びの取組の縮小も大きく影響していると考えられる。

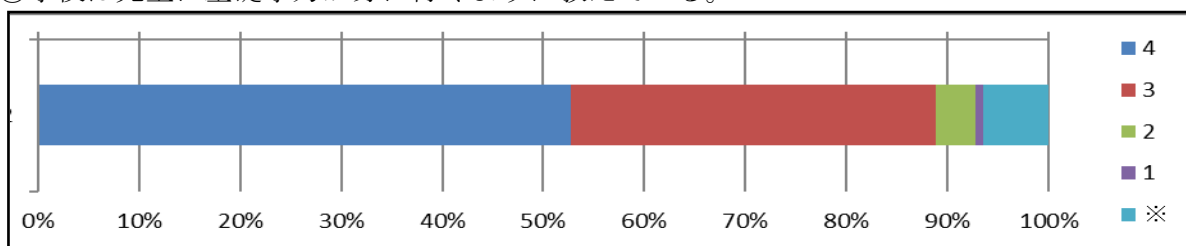
2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

■十分達成 ■達成 ■要改善 ■至急改善 ■分からない

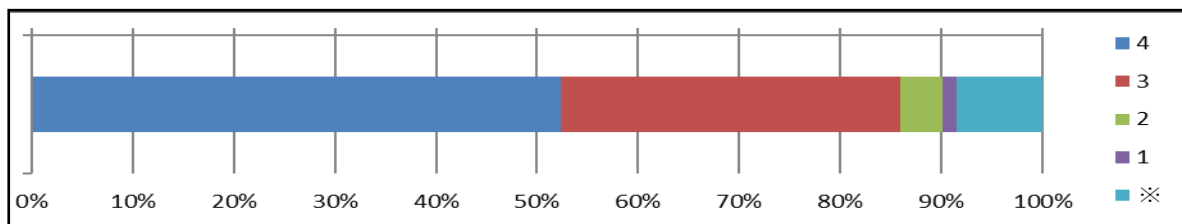
①学校は学習内容がわかりやすく楽しい授業をしている。



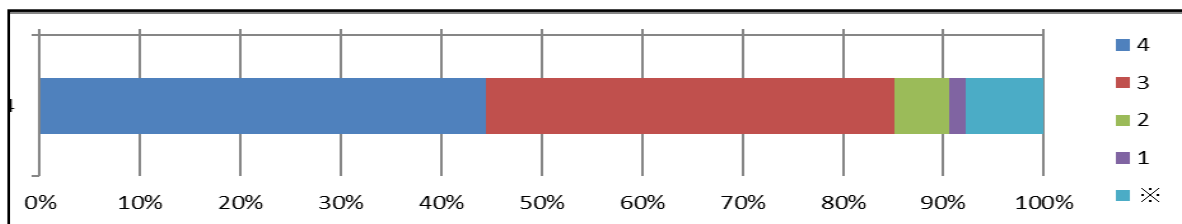
②学校は児童に基礎学力が身に付くように教えている。



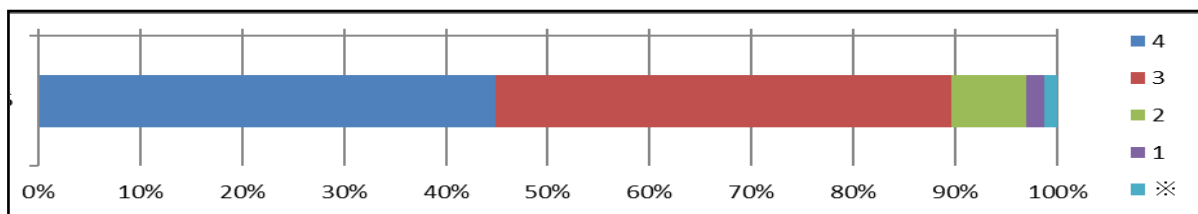
③学校は通知表等を通して児童の学力を適切に評価している。



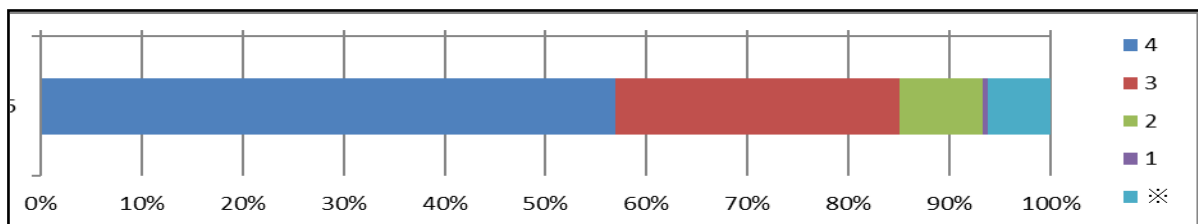
④学校は児童の努力を認めたり励ましたりして、温かく接している。



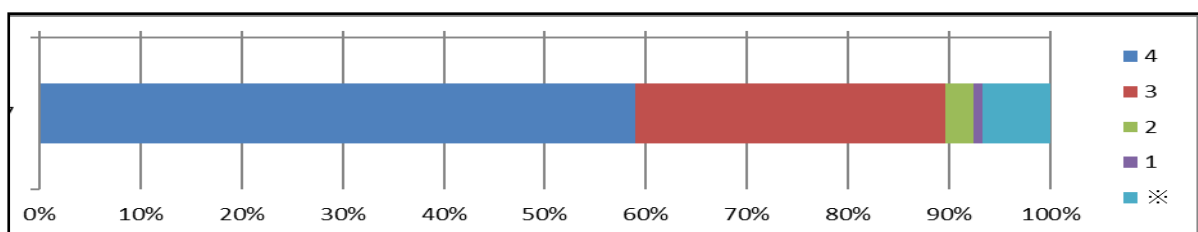
⑤児童は明るく生き生きと学校生活を送っている。



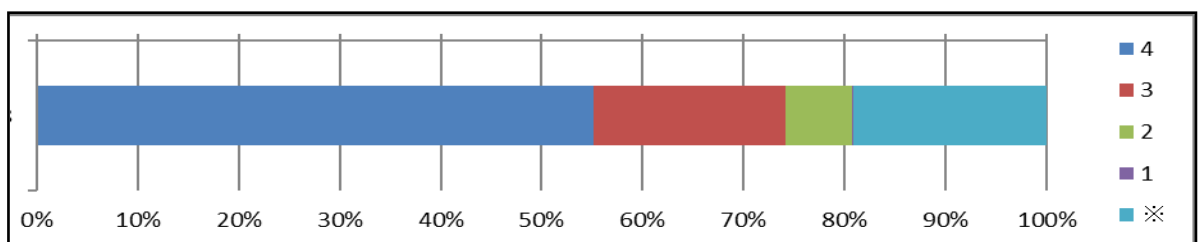
⑥学校は児童の健康・体力の増進に努めている。



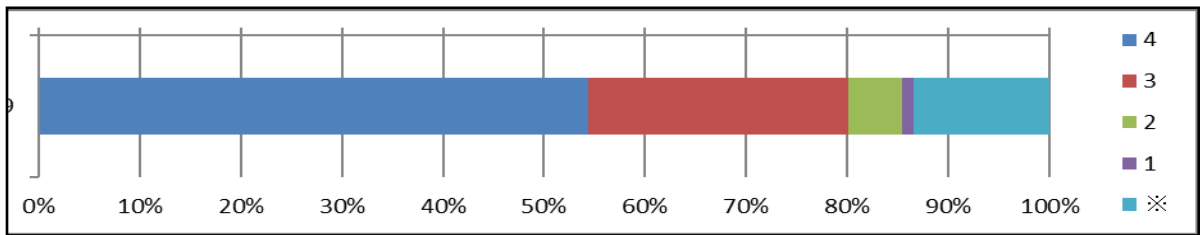
⑦学校は道徳教育に力をそそぎ、児童に思いやりの心や規範意識を育てている。



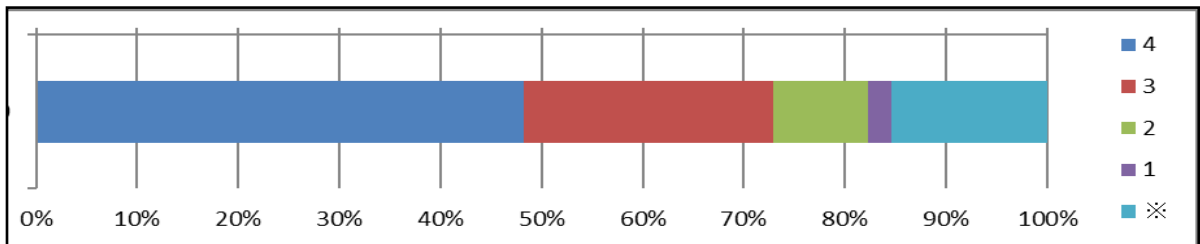
⑧学校はボランティア活動や清掃活動などの様々な奉仕活動を行っている。



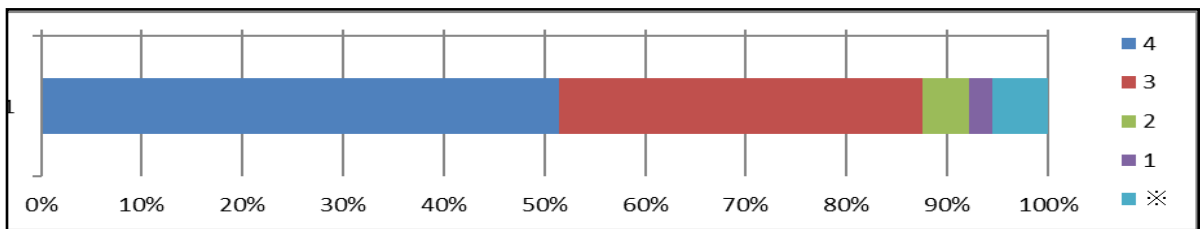
⑨学校は教育活動において人権を尊重する姿勢で子どもの指導にあたっている。



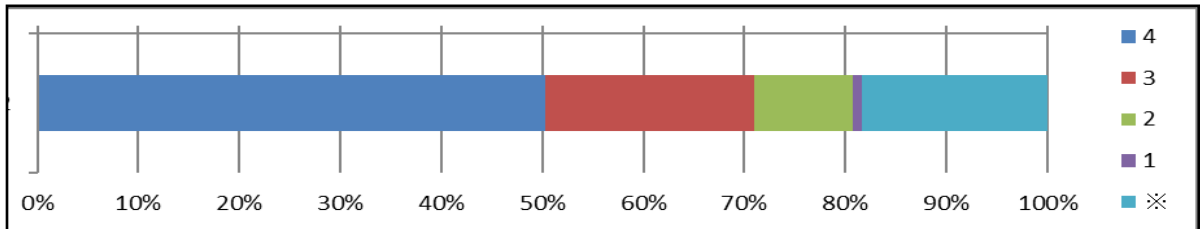
⑩学校は児童の問題や悩み、トラブルなどを見逃さずに相談にのったり指導したりしている。



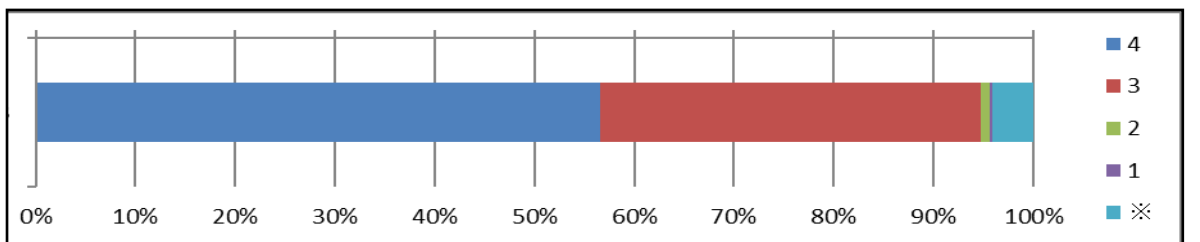
⑪学校は保護者にとって連絡や相談がしやすく、適切に対応している。



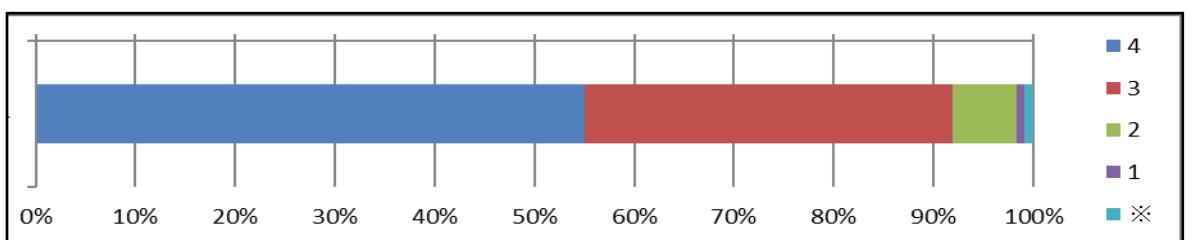
⑫学校は保護者や地域の人々が積極的に教育活動にかかわれるようにしている。



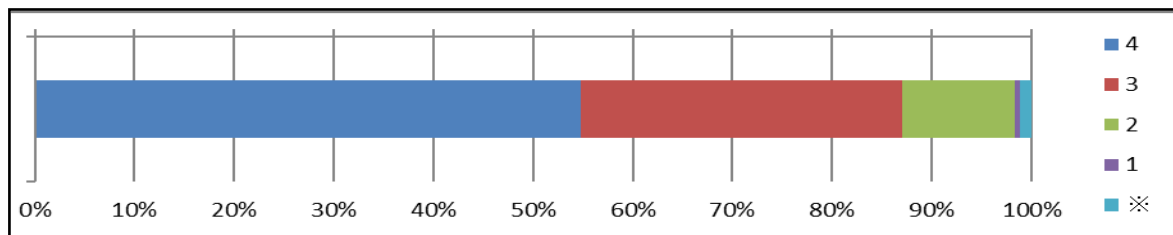
⑬学校は児童の安全確保や安全対策に様々な配慮をしている。



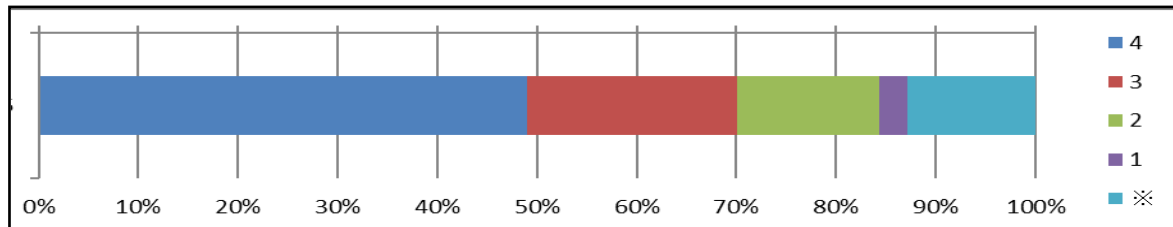
⑭学校は行事や学校公開などを通して児童の学習の様子や生活がわかるようにしている。



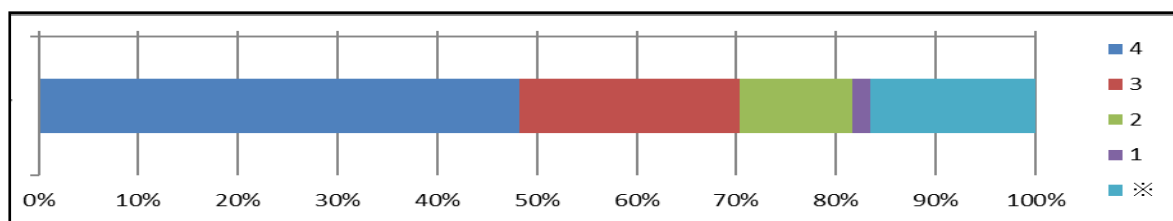
⑮学校は保護者に出す文章や連絡等は、わかりやすく内容も適切である。



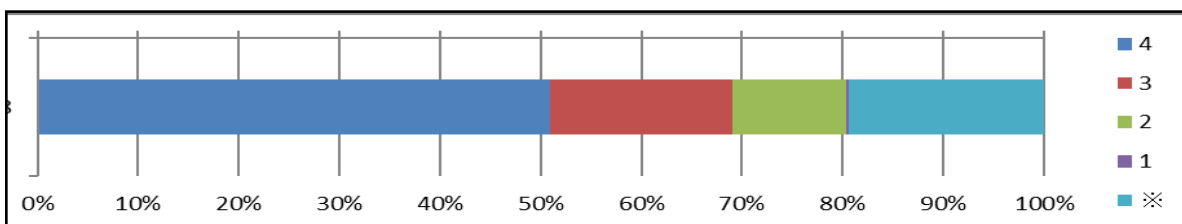
⑯学校はコンピュータや図書室を十分活用している。



⑰学校は地域を生かした教育活動や行事がある。



⑱保護者は学校の教育活動に積極的にかかわっている。



※印の「よくわからない」の回答の割合が多い。これは、コロナ禍の影響で保護者が来校する機会が限られたことで評価がしにくい状況であったと考えられる。学校の取組の発信の仕方についても工夫していかなければならない。

このような中、多くの設問で肯定的な評価が8割を超え、中でも設問⑬「学校は児童の安全確保や安全対策に様々な配慮をしている。」については、95%の肯定的評価をいただいた。新型コロナウイルスの感染防止対策の取組、学校周辺の再開発により通学路の変更を行う際の安全対策等について高く評価いただけたと考える。また、設問⑫「学校は保護者に出す文書や連絡等は、わかりやすく内容も適切である」は昨年度に比べて肯定的評価が大幅に増えた。(92%)紙での配布だけだったものからクラスルーム等による電子データでの配布移行等を今後も進めていきたい。

一方で、設問⑩「学校は児童の問題や悩み、トラブルなどを見逃さずに相談にのったり指導したりしている。」は約7割に留まった。本設問は昨年度も低い評価であった。今一度、児童の心の変化に気付き、寄り添い対応できるよう教職員で徹底していきたい。

3 今後の改善方策

令和3年度は、前年度に続きコロナ禍での教育活動を余儀なくされた。しかしながら、できることは工夫しながら進めてきた。令和4年度は感染防止対策を徹底しながら、以下の観点で教育活動を進めていくこととしたい。

① コロナ禍に対応した学校行事の実施（コロナの感染状況によって変更する）

- ・令和3年度の実績を踏まえ、運動会50m走記録会と表現運動発表会に分け学年入れ替え制で実施し、各家庭2名までの参観（未就学児を除く）とする。
- ・文化的行事は展覧会を幼稚園と合同で実施する。
- ・5年生の宿泊行事を鴨川臨海学校から赤城林間学校に変更して実施する。理由は、天候に左右されず自然豊かな環境で宿泊行事が実施できる点、大規模校であっても余裕をもって施設を利用できる点が挙げられる。

② 保護者や地域の方々の来校機会の創出

可能な限り、対面での実施に向けて準備を進めていくが、一部オンラインや配信等を効果的に活用しながら実施することで、児童の学習の様子や生活が分かる機会を設ける。

③ タブレット端末を活用した取組

令和3年度に配備された一人1台タブレット端末のほか、プロジェクター等のICT機器を活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めていく。そのために、現在配置されているICT支援員を活用する。また、学習履歴などの教育データを活用した児童一人一人に応じた個別最適な学びの充実を図っていくとともに、タブレット端末を毎日持ち帰ることから手紙の配布やアンケートの回収・集計など、より一層家庭との連携にも役立てていく。

④ 地域との連携

令和3年度から地域と連携した授業づくりを校内研究のテーマに設定して取り組んできた。特に、「一般財団法人 東京水産振興会」や「東京海洋大学」、「浜離宮恩賜庭園」をはじめ、地域の皆様のご協力を得ることができた。令和4年度は、生活科や総合的な学習の時間を中心に、自分たちの住んでいる豊海町、勝どき地域に愛着をもって学べるような地域学習を進めていく予定である。なお、令和4・5年度中央区教育委員会研究奨励校の指定を受けることになった。区や地域とも連携しながら研究を進めていく予定である。